

図書館卒業生からのメッセージ 2019 Part1

☆..きらっと☆図書館講座⑦with キャリア支援センター..☆

☆ 卒業生からのメッセージ 2019 ☆のご報告

2019年5月17日(金)12:20~12:55 図書館で開催しました。

今回お話いただいたのは、2016年度生活未来科生活福祉コース卒業生の稲葉さん、東さん、利田さんです。

現在、稲葉さんは「グループホーム ならの郷」で、利田さんは「あすならホーム郡山 ショートステイ」で、東さんは

「介護老人保健施設 めくもり田原本」で介護福祉士として働いています。



①「どうして今の職場に就職しようと思ったか教えてください。いつ頃、就職は決まりましたか」

②「就職してから、もっと勉強しておけばよかった分野があれば教えてください」

③「学生時代にしていた良かったと思うことは何ですか」

④「仕事をする上で大切にしていることは何ですか」

⑤「実習生の立場から実習を受け入れる立場になりましたが、実習生に心構えや行動などで気をつけてほしいことはありますか」

などの質問に、先輩は、

①「12月に、現在就職している施設に実際に見学に行き、利用者さんや施設のアットホームな雰囲気が自分には合っていると感じ、12月に就職試験を受け、就職を決めました」

「8月頃から施設見学に行き始め、12月頃に就職を決めました。子どもがまだ小さかったので、夜勤の無いもしくは回数の少ない施設を探していました。また私が就職した法人では、「あすなら10の基本ケア」というものがあり、例えば「おむつをしない介護」等、1から10の基本ケアを実践することで利用者さんに「普通の暮らし」を取り戻してもらうことを基本方針としています。施設見学に行き利用者本位の施設の方針に感銘を受け、就職試験を受け、就職を決めました」

「私は9月卒業だったのですが、10月頃、自宅から近い現在の職場の求人をみつけ、相談会に行き、試験を受けて就職を決めました」

②「高齢者の病気のことなど、もっと勉強しておけば良かったと思いました。施設に看護師の方はいますが、利用者さんに一番身近で接している介護福祉士である自分たちが、利用者さんの変化に気づくことができ、それを看護師の方に繋ぐことはとても大切だと思います」

「実際働く上で、高齢者の病気や医療の知識は、利用者さんの健康状態を知り、ケアをする上でとても必要であり、病気のこと、薬のこと等もっと勉強しておけば良かったと思いました」

「介護の現場でよく使われる用語、体の部位や高齢者がよく飲んでいる薬のこと等、勉強しておけば良かったと思いました。職員間での申し送りの際にも必要な知識です」

③「実習や学外実習での学びです。学外実習で毎日記録を書くことは、本当に大変ですが、現場に出てからも、とても役立ちます」

「本学の授業では、グループワークが多かったのですが、グループワークの授業はとても役立ちました。働き始めてからも「チームケア」、みんなで情報を共有し、自分の意見を発信し、みんなで課題について考え行動することはとても大切です」

「私は学生時代に接客のアルバイトをしていたのですが、言葉遣いやお客様との対応の仕方等、現在の仕事にもとても役立っています」

④「コミュニケーション」です。とても基本的なことなのですが、「挨拶をする」、「お礼を言う」、「ごめんなさいを言う」こと等をとても大切にしています」

「誠実であることです。人間なので、ミスもあり間違っただけでもしてしまうことはありますが、ミスをした時は、誤魔化さず説明をし、分からないことは立ち戻って理解し次に繋げることが大切です。利用者さんとの関係や職員間であっても信頼関係を築く上で、誠実であることはとても大切です」

「ストレスをためないことです。ストレスをためないよう、職員同士で飲みに行ったり、休日には遊びに行ったりして気持ちを

リセットしています」

⑤「実習生には、何にでも興味をもって、自分から積極的に関わってほしいと思います」

「そうですね。私も利用者さんに積極的に関わってほしいと思います。疑問に思ったことは、どんどん質問をしてほしいと思います」

「体験学習などで小学生や中学生が施設見学に来ます。見学が終わった直後、オフになった時等は、案外、立居振舞などは結構みられています。利用者さん、施設職員からも自分が見られている意識を持って、立居振舞など気をつけてほしいと思います」

など答えていました。

その他、学生さんからの質問には、

⑥「膝の痛みなどがあり、介護職としてやっていけるか等、不安があります。

また同世代なのですが、体力的に限界は感じませんか」

この質問には、

⑥「施設により介助の方法は様々です。入浴介助の際は、コルセットをつけ

ることをしていたりします。自分の施設では、利用者の自立支援を促し、また介護者にとっても体に負担のかからない移乗方法である三角移乗という方法をとっています。しんどい時は、早めに周りの方に相談することも必要です。日頃からストレッチをすることも心がけています。体力的には、しんどい時もありますが、慣れてきますよ(笑)」

「私は日頃からストレッチをしています。複数の方のおむつ替えをすることが分かっている場合は、ベッドの高さを元に戻すことを忘れないようにして、おむつ替えの時だけ、ベッドの高さを変更して介助することもあります」など先輩は、真摯に答えていました。

生活福祉コースの学生など約 20 名の参加がありました。

アンケートでは、

・自分がどのような事を考えて就職先を決めれば良いのか、この 2 年間で勉強しておいた方が良い事を知れたので、今は課題がたくさんあって大変ですが、頑張ろうと思えました。

・貴重なご意見を聞くことができて、とても良い経験になりました。ありがとうございます。

・様々な生の声がきけて良かったです。ありがとうございました。

・経験者の話を聞けるのは良いと思いました。

などの声がよせられました。

稲葉さん、東さん、利田さん、忙しい中、本当にありがとうございました。

働き始めてからもさらに成長した姿を直に拝見できて先生や私達職員もとても感動しました。

また、遊びに来てくださいね。

図書館で“きらっと☆図書館講座⑥ ☆..きらきら よい子の遊び講座 2019..☆

2019年6月12日(水)12:25~12:55 図書館で開催しました。

“歌は友だち”:施設で使える!音楽レクリエーションの実際

プログラム

証城寺の狸囃子

村祭

星影のワルツ

ひまわりの約束

故郷



シリーズ 11 回目となる今回は、「歌は友だち:施設で使える!音楽レクリエーションの実際」と題し、音楽ボランティアをラ

イフワークとして活躍中である本学非常勤講師の和田宏一先生と宮田眞理先生に、レクリエーションの場において音楽をどう生かせば良いかについてご指導いただきました。昨年に引き続き、本学教授の安永龍子先生と准教授の武田千幸先生による「福祉施設などでおこなうレクリエーション:音楽を使った体操」の実演や指導もありました。

8・9月に実習を控えた生活福祉コース学生に向けて、この講座を開催しましたが、日本語教育別科やこども保育コース、食物栄養コース・ビジネスキャリアコースの学生の参加もありました。

和田宏一先生、宮田眞理先生お二人とも、高齢者施設などで音楽ボランティアをされており、その経験から、高齢者施設で好まれる歌のジャンルとして「唱歌と童謡」「歌謡曲と演歌」などがあること、NHKの朝ドラの主題歌などが人気であることなどを紹介いただきました。

今回の講座では、「唱歌と童謡」ジャンルで「証城寺の狸囃子」「村祭」を、「歌謡曲・演歌」ジャンルで、人気歌手である千昌夫の「星影のワルツ」を歌っていただきました。

図書館講座ということで、高齢者施設でレクリエーションをおこなう際に参考になる雑誌や選曲の参考になる本の紹介もありました。

講座中盤では、「福祉施設などでおこなうレクリエーション:音楽を使った体操」の例として、雑誌「レクリエ」で紹介されている「4つのポイントを取り入れた口腔・食事のための体操」を「お寺のおしょうさん」の歌に合わせて、会場の皆さんと一緒に体験しました。

最初に、安永先生と武田から「唾液腺押し」「首回し」「口の体操」などの紹介と実演がありました。

「せっせっせーの よいよいよい」のリズムに合わせて体操するうちに、会場の皆さんからは、自然と笑顔があふれました。



安永先生からは、食べることは生きること、楽しみであること、高齢になると唾液が出にくくなりますが、今回のレクリエーションのような唾液腺押しや口の体操などを取り入れることで、楽しみながら口腔・食事の機能を鍛えることはとても大切であること等を教えていただきました。

続いて、和田先生からは、障害者施設に音楽ボランティアに行った際に、喜ばれる曲として、アニメソング等があるということで、今回は、「STAND BY ME ドラえもん」の主題歌として「ひまわりの約束」を歌っていただきました。

講座の最後は、会場の皆さん全員で、「故郷」を歌いました。

生活未来科生活福祉コースの学生など約30名の参加がありました。

アンケートでは、

- ・音楽療法には興味がありましたので、良い機会になりました。
 - ・心地よい声で聞きやすかったです。これからレクをすることがあるので、とても参考になりました。
 - ・これからレクリエーションを考えていく上で選曲したら良いものが分かって良かった。
 - ・このような企画は今後も希望します。もう少し時間があればと思います。
 - ・おもしろかったです。
 - ・とても楽しく明るい会でした。また参加したいです。
- などの声が寄せられました。

2019 大学祭 図書館イベント

「えほんのひろば」「としょかん de カフェ」「としょかん de にゅうめん」

10月26日(土)11:00~16:00、10月27日(日)10:00~16:00に、図書館で卒業生による絵本の読み聞かせや、ぬり絵を楽しめる「えほんのひろば」を開催しました。また昨年度に引き続き、図書館でゆったりコーヒーを飲むことができる「としょかん de カフェ」や12:00~13:30に「としょかん de にゅうめん」も同時開催しました。「としょかん de カフェ」では、昨年度に引き続きパンの販売もしました。

2日間で約30組の家族連れや卒業生、一般の方など延べ約310名の参加がありました。

参加者からは、次のような声がよせられました。

- ・落ち着く雰囲気で、心からリラックスできた。
- ・図書館らしく静かで落ちついた雰囲気も良く、本もたくさんあり、そこで普段しない飲食をするというお祭り感が少しあるのが新鮮だと思いました。
- ・静かでゆったり昼食をいただきました。食後のコーヒーもありがたかったです。
- ・ゆっくりコーヒーを飲むのにちょうどいい空間でした。
- ・にゅうめんとても美味しかったです(だしが特に)。
- ・座ってひと息つける場所があるというのは気持ちが楽だった。
- ・コーヒーでひと息でき大変良かった。



○東日本大震災 復興応援パネル展

10月26日(土)11:00～16:00

10月27日(日)10:00～16:00

被災地ボランティアを続けている本学事務局長倉田清の発案で、「震災を忘れず、継続的に関心を持って復興を考えるきっかけにしてほしい」との願いから、「東日本大震災 復興応援パネル展」を図書館前で行いました。

「忘れない 2011.3.11、忘れないで「浪江町」、天国からの贈りもの」と題して、復興途上で急逝された故・馬場 有(ばば たもつ)前浪江町町長からの遺言12章(朝日新聞の連載記事「てんでんこ」第35シリーズ「遺言」)などを2号館2階図書館前にて展示しました。

開催にあたり、これまで東北の復興に積極的に取り組んでこられました「NPO ナルク京都ことの会」をはじめ、多くの方の支援をいただきましたことに、深く感謝と謝礼を申し上げます。



“としょかん de カフェ:Xmasバージョン”

12月23日(月)、24日(火)、25日(水)9:00～16:30

大学祭で好評だった“としょかん de カフェ”をクリスマス時期にも開催しました。

2016年度から始めて今年で4年目になります。

今年度も昨年度に引き続き、パンの販売もしました。

試験やレポートの合間に、温かい飲み物を飲んで、ほっと一息。

図書館でゆったりとした時を過ごす学生さんで賑わいました。

約80名の利用がありました。



参加者からは、次のような声がよせられました。

- ・ゆったりとした雰囲気よかった。
- ・普段利用している図書館でまったりできたので良かったです。勉強の合間にホッとできてうれしかったです。
- ・温かい飲み物(缶以外)が飲めるにはうれしいです。課題の休憩時間がとれてリラックスできます。
- ・またやってほしい。
- ・パンもドリンクも美味しかったです。
- ・居心地が良かったです。
- ・学校内でホッコリできるスペースありがたい。

